第1回770（ななお）のひな人形展

～「すごい」の一言！～

３月2日㈮：フォーラム七尾

七尾市のにぎわい再生と伝統文化の発信を目的に県内ではじめて企画されたひな人形展。七尾をもじって770体のひな人形を飾る予定だったが、市内外の人たちの協力があり950体が集まった。

関係者は「１年前から準備に入り、ここまでできるとは。これは行政や民間企業、そして特に女性ボランティアのべ200人の協力があったからこそ。皆さんに感謝です」と感慨無量。会場に入るなり「すごい」と驚く来場者が後を絶たないほど、見応え十分。この人形展が末永く続き、七尾市のにぎわいにつながることを期待したい。

焼きかきを堪能！

七尾湾能登かき祭2012特別イベント

２月25日㈯・26日㈰：能登演劇堂前

１万人を超える大勢の観光客などが県内外から訪れ、冬の能登の味覚を堪能していた。会場いっぱいに並べられた約500席の炭火焼用のコンロは座りきれないほどの人で埋め尽くされ、家族連れや若者グループなど幅広い年代の熱気に包まれていた。金沢市の友人とともに来場したという東京都の女性は「初めて炭火で焼きかきを食べたが、おいしさにビックリ。やみつきになりそう」と声を弾ませていた。

高齢者擬似体験（東湊小学校）

～おじいちゃん・おばあちゃんになって～

３月２日㈮：東湊小学校

総合的学習科目の一環として、高齢者や障害者の立場になって体験をする授業が行われた。３年生25人が高齢者や障害者の感覚に近づける道具を身にまとい、普段は何でもない行動が、「見えない」「書けない」「重い」「歩けない」といった声が上がった。体験を終えた児童は「おじいちゃんたちの不自由さがわかった。困っている人がいたら何かをしてあげたい」と話した。児童たちにとって、この体験から得た成果は大きいと感じた。

もちつき大会（七尾コロサスキー場）

～すっごいおいしい！おかわり！～

2月12日(日)：七尾コロサスキー場

スキー場では天候にも恵まれ、多くの人たちでにぎわう中、地元で収穫したもち米60キロを使用し、もちつき大会が行われ、来場者に500食が振舞われた。来場者からは思いもしなかったサービスに「すっごくおいしい。おかわりいいですか」と大好評。管理組合の仙田忍理事長は「自分で作ったもち米を皆さんがおいしい、おいしいと言ってくれるのが何よりの喜び。来年もがんばって作らなくては」と来年も開催すると約束をした。

第29回市子連将棋・オセロ大会

～ひとつ先は読めても…～

2月26日(日)：いしかわ子ども交流センター七尾館

今年は将棋22人、オセロ79人の子どもたちの参加。そして七尾東部中学校のボランティア生徒16人の協力で大会がスタート。将棋やオセロは先の一手を読む競技。子どもたちは、頭を抱えながらも相手の一手を読みながら打っていた。勝負を終えた子どもからは「ひとつ先は読めるけど、ふたつ先は読めないんだよなぁ。相手はそれを読んでいたみたいだから強かった」と反省する場面も。先を読む力の差が勝敗を左右する結果となっていた。

海上自衛隊　掃海艇「まえじま」一般公開

～お兄ちゃんたち、カッコイイ～

3月1日(木)：七尾港　第一埠頭西

母港である舞鶴港から七尾港に寄港した掃海艇「まえじま」。「まえじま」は、機雷の除去を任務とする艦艇だが、今回、七尾港に寄港した理由は、七尾港までの水路調査をすることが目的。七尾港に滞在する間、市民に一般公開もされた。七尾みなと保育園児も見学に訪れ、見たことがない大きな船に園児は興奮気味。男の子からは「船もかっこいいけど、船で働くお兄ちゃんたちもかっこいい」と男の子ならではの感想が聞けた。

ちびっこ運動教室

～みらい子育てネット　つくしクラブ～

3月3日(土)：中島保育園

中島地域で活動する「みらい子育てネット　つくしクラブ」が、親子のふれあいの機会を作ろうと、「ちびっこ運動教室」を開催。この日を楽しみに集まった約70人の親子は、お互いの体を寄せ合いながら、笑顔で運動を楽しんだ。子どもたちは「いっぱい運動できて楽しかった」と目を輝かせたものの、保護者には少し疲れた表情も。普段子どもと一緒に体を動かす機会が少ない保護者にとっては、有意義な時間だったように感じた。

のと・七尾『あっ』発見フェア2012

～創意工夫の商品に新たな発見～

3月4日(日)：七尾サンライフプラザ

このイベントに七尾市の企業を中心に42企業が参加。商品のＰＲや販売、企業間の情報交換や商談などを通し、新たな開発や販路開拓につなげることを目的に開催。オープンと同時に多くの来場者でごった返した。来場者からは「これ、何？」と見た目ではわからない商品を手に取り、企業関係者がその商品を説明。説明を受けた来場者は「そんな仕組みになってるんだぁ」と新たな発見に関心を示す場面もあった。

サケの稚魚の放流

～必ず戻ってきてよ～

3月7日(水)：北星小学校

北星小学校の恒例行事となっているサケの稚魚放流。そのかいがあり、毎年数匹ではあるが、サケが故郷崎山川に戻ってきている。12月中旬、石川県水産総合センターからシロザケの卵を約300個もらい、学校でふ化をさせ、５㎝になるまで児童たちが育ててきた。サケとのお別れの日。放流した子どもたちは「戻ってくるか心配だけど、大きくなって３年か４年後に戻ってきてね」と大海原へ旅立っていったサケにお別れの言葉をかけていた。